

一般社団法人日本鉱物科学会
2021年度第3回定例理事会 議事録

【1】招集年月日：2022年8月10日(水)

【2】開催年月日及び時刻：2022年8月24日(水) 15時00分～16時59分

【3】開催場所：国立科学博物館総合研究棟4階 地学研究部長室
〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1
(Zoom Meeting によるオンライン会議)

【4】理事総数および定足数：総数22名，定足数12名

【5】出席理事数：21名 Web会議参加

宮脇律郎，大和田正明，安東淳一，阿部なつ江，井上 徹，池田 剛，磯部博志，
大藤弘明，鍵 裕之，川本竜彦，片山郁夫，河上哲生，栗林貴弘，黒澤正紀，
辻森 樹，永井隆哉，永嶋真理子，伴 雅雄，三宅 亮，塚本尚義，吉朝 朗

【6】欠席理事数：1名(土屋範芳)

【7】出席監事：小暮敏博

【8】オブザーバー：(理事以外の幹事，委員長等報告事項報告者)

出席：森下知晃Elements幹事，高澤栄一和文誌編集幹事，門馬綱一JpGU2022年学会選出プログラム
正委員，新鉱物・命名・分類委員会委員長，西原 遊JpGU2022年学会選出プログラム副委員，
坂野靖行博物館委員会委員長，西山忠男学術会議連絡委員・IMA小委員会委員長，小西博
巳2022年年会運営委員会委員長

欠席：林信太郎教育普及委員会委員長，篠田圭司2023年年会運営委員会委員長，則竹史哉選挙管理
委員会委員，中村佳博選挙管理委員会委員，遠藤俊祐選挙管理委員会委員，吉田健太研究
発表優秀賞選考委員会委員長，松原 聡櫻井賞選考委員会委員長，小山内康人名誉会員推薦委
員会委員長

【9】議事概要

宮脇理事の発議により議長を理事の互選で選ぶことになり，黒澤正紀理事が議長に選出され
た．黒澤議長から，2022年8月10日に理事会招集通知を行い，本日第3回定例理事会を開催する
ことになった旨の報告があった．

次に，決議定足数と開始時刻における出席理事数の確認を行い，理事21名の出席を確認した
ので，定款30条により理事会が成立した．このことを受け，黒澤議長はWEB会議システム
(ZOOM Meeting)を用いての理事会開会を宣言した．また，WEB会議システムの通信状況(出席
者全員の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり，適時的確な意見表明が互いにできる状況)に
問題がないことを確認し，2021年度第3回定例理事会を開始した．

会議に先立ち、理事の互選で黒澤正紀理事が書記として選出された。

I. 報告事項

1. 会長・副会長の職務執行報告（宮脇会長・大和田副会長）

会長より、学会状況の簡単な報告があった。個別の業務は各担当者に一任していることから、以下の順に沿って各担当者から報告を行った。

2. 会員報告（阿部会員幹事・理事）

阿部会員幹事より、2021年度第2回定例理事会(2022年5月21日)以降の会員動静について、以下の通り報告がなされた。物故会員2名(永年会員2名)、退会者24名(内訳:永年会員1名,シニア会員4名,一般会員10名,学生会員9名)、連絡先不明者1名(学生会員1名)、会費未納による会員停止予定者11名(一般会員7名,シニア会員4名)であった。

3. 広報報告（大藤広報幹事・理事）

大藤広報幹事より、広報活動について以下の通り報告がなされた。

(1)会員へのML送信：事務局を通じ、2021年は総会以降に1件、2022年は現在までに14件配信した。内容は、学会事務連絡、学術雑誌の刊行案内、公募情報、関連学会の催し等の案内など。

(2)学会HPおよび公式SNS(Facebook, twitter)を通じた広報活動：学会HPの更新は事務局を通じ、学会事務連絡、学術雑誌の刊行案内、公募情報、関連学会の催し等の案内などを行った。また、公式SNSでもそれら情報を発信した。今年新たに開設した学会公式Youtubeチャンネル上で一般・入門者向けの動画を公開(現在8本の動画を公開中)。

(3)2022年連合大会のオンラインブース展示：JpGU2022において公式Youtubeチャンネルの動画をメインとしたオンラインブース展示を実施。JpGU事務局情報では、延べ閲覧数96件、ユーザー数53人と昨年度(延べ閲覧数328件、ユーザー数223人)と比較して大幅に減少した。今回はハイブリッド開催でオンサイト展示も行われたため、オンラインでの参加者・閲覧者が限定的だった可能性が高い。来年はオンサイトでのブース展示やライブ実験などの実施を予定。また、好例のクイズラリーにも申し込み、景品としてヒスイ輝石(2個)、スピネル結晶(14袋)を提供。

(4)今後の学会ホームページの更新・運用に関する準備：これまで事務局が管理・運営してきた学会ホームページを継続運用するための方法を検討した。広報委員をはじめ必要なユーザーが簡便・迅速に更新できるように、html形式からWordPress形式に刷新し、広報委員会を中心に管理・運営をすすめる方向を検討中。学会等ホームページの作成に実績のある株式会社アクセライトと数回打合せ、現行ホームページからの移行にかかる費用について見積もりを取得。

4. 渉外報告（永島渉外幹事・理事）

特に報告事項なし。

5. 和文誌編集報告（高澤和文誌幹事）

高澤和文誌編集幹事より、和文誌の編集状況および編集委員会について以下の報告がなされた。

(1)編集状況報告(2022年5月21日～8月24日): 1)発行状況: 岩石鉱物科学2022年51巻1号電子ジャーナルとして2編公開(内訳: 受賞紹介2編). 現在まで51巻1号電子ジャーナル公開: 資料解説7編, 総頁は79頁. 2)現在査読中論文1編(原著論文1編).

(2)GKK編集委員会報告(2022年6月13日): 1) GKKの論文にTwitter等ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)の情報を使用する場合は, 引用文献に加えずに, 電子付録にTwitter等の受信記録を一覧として示すことになった. 2) GKKカテゴリーに対して3名ずつ担当者を決めた. 総説: 久保友明*・野口高明・高澤栄一, 解説・資料: 興野純*・中村美千彦・宮原正明, 勘どころ: 濱田麻希*・大藤弘明・小暮敏博, 最近の研究から: 栗林貴弘*・栗谷 豪・近藤 忠, 日本新産鉱物: 門馬綱一*・永島真理子・下林典正, 博物館: 星出隆志*・坂野靖行・塚本尚義, フィールド紹介: 伴 雅雄*・掛川武・(高澤栄一), 博士課程・若手紹介: 三宅 亮*・阿部なつ江・遠藤俊祐. *印: 班長. 3) J-STAGE Dataの利用に関するJSTとの意見交換会を6月15日(水)に実施した.

6. 英文誌編集報告 (吉朝英文誌幹事)

吉朝英文誌編集幹事より, 2022年5月21日以降の状況について報告がなされた.

JMPS状況報告(2022年8月20日現在): 1)投稿数状況報告: 2022年上半年期投稿数18編, 前年の2021年投稿数26編, その前の2020年投稿数35編に続きコロナ禍で投稿数が減少. 2)編集状況: 受理論文4編(印刷中1編, 準備中3編), 査読中: 5編, 返却中: 4編. 3)発行状況: 117巻1号電子ジャーナル: 原著論文3編, Letter 4編, Technical Note 1編, Editorial Message 1編, 計71頁. JMPSへの投稿はコロナ禍で減少しており, 引き続き投稿をお願いしたい. 4) 2021 JMPS Impact Factor: 1.041. 5) 特集号“Recent Advances in Mineralogy, Petrology, Geochemistry and Geochronology in East Antarctica” Guest Editors: Tomokazu Hokada (National Institute of Polar Research, Japan), M. Satish-Kumar (Niigata Univ., Japan) and Tetsuo Kawakami (Kyoto Univ., Japan) が提案され, 臨時JMPS編集委員会で承認された.

7. 庶務報告 (黒澤庶務幹事・理事)

黒澤庶務幹事より, 2021年度第2回定例理事会(2022年5月21日)以降の庶務業務について以下の報告がなされた.

1) 2021年度第2回理事会議事録作成, 第3回定例理事会(2022/08/24: WEB会議)日程調整, 開催準備, WEB会議準備, 資料作成, 2) 2021年度定時総会開催日時, 準備, ZOOM設定, 総会資料作成, 場所, 開催方法などの検討と準備, 受賞者へ受賞通知, 授賞式記念品準備, 各委員会開催案内, 3) 役員選挙各文書等(役員候補者公示, 選挙開始, 選挙結果公示など)について選挙管理委員会との対応, 選挙当選者への書類提出依頼, 4) 会員へのメールニュース連絡, 3月まで会員へ学会誌発送, 国内外寄贈図書整理, 海外寄贈学会誌発送, 5) 後援・共催・協賛対応(一般普及講演共催 糸魚川市), 6) 令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞候補者推薦依頼, 学術会議からの依頼など対応, 7) 一般社団法人定時社員総会「招集通知」の電磁的方法(メール)採用への同意お願い, 8) 事務局委託先検討, 現事務局管理など.

8. 行事報告 (磯部行事幹事・理事)

磯部行事幹事より, 今年度および来年度の行事について以下の通り報告がなされた.

2021年度第2回定例理事会(2022年5月21日)では、学術講演会および総会の会場を新潟ユニゾンプラザ(新潟市中央区上所2丁目2番2号)と報告していたが、コロナ禍の状況変化に伴い、両会場を新潟大学五十嵐キャンパス(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)に変更した。普及講演会・巡検については会場変更等はなく、さらに糸魚川市との共催という形で実施する。学生会員と企業との交流会も実施予定。その他の準備状況については順調で、口頭発表数も3年前の対面での開催状況に戻っている。来週以降に現地参加とオンライン参加の希望者数の調査を行う予定。小西2022年年会LOC委員長より、ポスターコアタイムを現地参加とオンライン参加で時間帯を分ける、懇親会の準備状況などの補足説明、会場での弁当予約などの説明があった。また、2023年年会については、大阪公立大LOCを中心に準備を進め、2023年9月14日-16日での開催を予定。

9. Elements報告(森下 Elements幹事)

森下Elements幹事より、Elementsの編集と刊行状況について以下の報告がなされた。

2022年7月28日にElementsに関係する緊急会議があり、発行の遅れやPrinciple Editor 交代になどの説明があった(宮脇会長出席)。会議の議事録は後ほど報告する予定。The Elements Teamから発行遅れのメッセージも送られて来ており、この後すぐに次号が発行される予定である。

10. 将来企画委員会報告(大和田委員長・副会長)

特に報告事項なし。

11. 特務幹事(細則等検討担当)報告(大和田特務幹事・副会長)

大和田特務幹事より、以下の報告がなされた。

2022年5月21日第2回定例理事会で報告した、庶務及び会誌その他の発行物に関する部分の運営細則の一部について、事業実態に合わせて内容を修正することを検討した。2022年8月12日(金)にオンラインでの会合を開き、その後、メールでの審議を踏まえて下記の答申をまとめた。

一般社団法人日本鉱物科学会 運営細則

<修正部分抜粋> 削除箇所は取り消し線、加筆箇所は下線を追記

第5条 各幹事は次に掲げる業務を分担する。

(1) 庶務

(イ) 総会、理事会及び幹事会に関する事項

(ロ) 記録の作成・整理及び保管

(ハ) 文書の発受及び保管

(ニ) 出版物の配布

(ホ) 事務局の管理

(ヘ) 表彰に関する事項

~~(ト) 国内外からの寄贈・交換図書の整理と保管~~

会誌その他の発行物

第22条 本会は会誌として和文誌(岩石鉱物科学)を毎年4回、と英文誌(Journal of Mineralogical and Petrological Sciences)を毎年6回発行する。

2 岩石鉱物科学は学術論文のほか、総説、解説、学会記事、ニュースなど、和文誌編集委員会が適当と認めた事項を掲載する。

3 Journal of Mineralogical and Petrological Sciences (JMPS)は学術論文のほか、JMPS編集委員会が適当と認めた事項を掲載する。

~~第23条 会員名簿を発行する。~~

第243条 その他の出版物の発行は幹事会で企画立案し、理事会の承認を経て行う。

第254条 その他の出版物を必要に応じて会員に配付することがある。

1 2 . 地惑連合報告 (阿部連絡担当委員・理事)

阿部理事より、以下の報告がなされた。

地惑連合では新役員・理事の選挙があり、当学会の阿部会員と大谷会員が新理事に選出され、会長には高橋幸弘氏(北大)が選任された。

1 3 . IMA小委員会・学術会議報告報告 (西山IMA小委員会委員長)

西山委員長に代わり、大藤理事(IMAカウンシラー)より以下の報告がなされた。

(1)IMA 2022 Lyonの報告：7月18日～22日の日程でフランス・リヨンにてIMA2022が開催された。33の学術セッションが立てられ完全対面形式で行われたが、新型コロナウイルスやウクライナ情勢の影響で中国・アメリカ・ロシアからの参加者はほとんどなく、参加者は400名弱と小規模であった(日本人参加者は21名)。久しぶりの対面開催の国際会議のため、連日オーラルセッション、ポスターセッションにおいて活発に議論が交わされた。企業による展示ブースも少数だが出展されていた。次回のIMA2026は7月下旬に中国・南京で行われる予定。

(2)IMA Business meetingの報告：会期中2回のBusiness meetingが開催された。初回のBusiness meetingでの主な議題は次の通り。前回のメルボルン大会以後の4年間の活動の総括、予算状況の報告；ワーキンググループ設立の報告；2022 IMAメダル受賞者 (Patricia Dove) の報告および審査委員交代の報告；IMA Ph.D. Student Awardの報告(受賞者5名、うち日本人1名(東北大・福島君))、IMAカウンシル役員選挙の候補者の紹介；IMAウェブサイトの更新計画；IMA2026 (南京) の準備状況報告。

(3)新たに設立された3つのワーキンググループの執行部メンバー：1)Nano-Mineralogy, Chair: Juan Liu (Peking Univ., China), Vice-Chair: Keisuke Fukushi (Kanazawa Univ., Japan), Vice-Chair: Michael Schindler (Univ. Manitoba, Canada), Secretary: Alejandro Fernandez-Martinez (Univ. Grenoble Alpes, France), 2)Mineral Informatics, Chair: Robert M. Hazen (Carnegie Inst. Sci., USA), Vice-Chair: Sergey V. Krivovichev (Saint-Petersburg State Univ., Russia), Vice-Chair: Yan Li (Peking Univ., China), Secretary: Shauna M. Morrison (Carnegie Institution for Science, USA), 3)Biomineralogy and environment, Chair: Prof. Giovanni di Giudici (Università di Cagliari, Italia), Vice-Chair: Dr Kevin Rosso (Pacific Northwest National Lab. USA), Vice-Chair: Prof. Jurai Maizlan (Univ. Jena, Germany), Secretary: Karen Hudson-Edwards (Exeter Univ. UK)。

(4)IMAの新役員候補者を選出した：1st Vice-President : Eiji Ohtani, 2nd Vice-President : Xiancai Lu (IMA2026 LOC委員長), Communication Officer : Michele Zema, 新Council member : Desh Chetty, Shauna Morrison。その他、全てのIMAコミッションの活動評価に関する承認、CNMNC, COMコミッショ

ンの執行委員交代の承認，新たに提案された3つのワーキンググループの承認などが行われた．

また，IMA 2022 Lyonでの感想として，ウクライナ情勢が政治経済の世界だけではなく，学術交流や理事会の役員人選にも影響を及ぼしている点やIMAの欧州主導の意向などの印象を受けた．今後のアジアの鉱物学のプレゼンスについても検討が必要ではと感じた．

1 4．JpGU 2022年学会選出プログラム委員報告（門馬委員長）

特に報告事項なし．

1 5．新鉱物・命名・分類委員会報告(門馬委員長)

門馬委員長より，以下の報告がなされた．

昨年はCNMNCで107種の新鉱物が承認され，日本からも群馬県桐生市で発見された桐生石が承認された．その他に分類・新定義などの承認があった．鉱物名の略称についても新たな提案が承認された．

1 6．教育普及委員会報告（林委員長）

特に報告事項なし．

1 7．博物館委員会報告（坂野委員長）

坂野委員長より，以下の報告がなされた．

1)2022年7月18日に開催のIMA博物館委員会ビジネスミーティング報告：これまでの活動の総括(国際会議M&M10(2024)開催地選定方法のガイドライン締結後，開催地は英国ウェールズ国立博物館に決定)がなされ，M&M10の準備状況が報告された．2)世界鉱物年への対応：世界鉱物年ロゴと世界鉱物年の簡単な説明文からなるパワーポイントファイルを作成，自然史系博物館の鉱物展示室に上記ファイルを印刷したものを掲出してもらうように働きかけた．現時点で6館(科博，フォッサマグナミュージアム，北九州市立いのちのたび博物館，中津川市立鉱物博物館，奇石博物館，産総研地質標本館)でロゴが掲示されている．

1 8．その他の報告

(1) 次期役員候補者選挙報告（選挙管理委員会 中村委員代理 黒澤庶務幹事）

中村委員長に代わり，黒澤庶務幹事より以下の報告がなされた．

2022年7月11日(月)から7月27日(水)までの間に投票された，一般社団法人日本鉱物科学会次期役員選挙結果について，以下の結果が報告された．なお，下記定款に従い，理事候補者と監事候補者は2022年9月17日(土)に開催予定の2021年度定時総会にて選任され，会長候補者，副会長候補者は同日開催予定の2022年度第1回定例理事会にて選定される予定．

定款抜粋(役員の選任)

第20条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

2 会長及び副会長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

投票状況は次の通りであった：投票用紙発送総数：818(内訳：WEB 778，郵送 40)，総投票数：135(内訳：WEB 129，郵送 6)，有効投票：124(内訳：WEB 118，郵送 6)，無効投票：11(内訳：WEB 11，郵送 0)，開票日：2022年7月29日，開票立会人：田口知樹。

理事：22名

大和田正明，井上 徹，阿部なつ江，池田 剛，磯部博志，大藤弘明，鍵 裕之，亀井淳志，川本竜彦，河上哲生，興野 純，栗林貴弘，黒澤正紀，高澤栄一，辻森 樹，土屋範芳，富岡尚敬，永井隆哉，永嶋真理子，坂野靖行，M. Satish-Kumar，三宅 亮

理事次点：佐藤 努

監事：下林典正

(2) 事務局体制再建に向けた検討報告（大和田副会長）

大和田副会長より，以下の報告がなされた。

事務局業務の委託について，6月に1社から見積をとったが，当学会の委託費用予算額は，会計幹事と相談の上，全体予算に合わせた金額を委託費用基準としているので，今回は委託するには難しい金額であったため，現在新たに2社に見積書を依頼している。

(3) 名誉会員候補者について名誉会員推薦委員会答申(小山内名誉会員推薦委員会委員長)

小山内委員長に代わり，大和田副会長より以下の報告がなされた。

2022年5月21日第2回定例理事会で諮問することにした名誉会員候補者の推薦について，名誉会員推薦委員会での慎重審議の結果，以下の2名のシニア会員を名誉会員候補者として理事会に答申するとの報告がなされた。

< 候補者 > 説明中の両括弧数字は下記第5条での適用条件の番号に対応

大谷栄治シニア会員

推薦理由

大谷会員は，(1)2006年にAmerican Geophysical Union Fellowとなり，2017年には H.C. Urey Award (European Association of Geochemistry) および Humboldt Research Award (the Humboldt Foundation) 受賞，2019年には鉱物学で世界最高位の賞であるIMA medal を受賞するなど極めて高い国際的評価があり，(2)1997年に日本鉱物学会賞を受賞，2010年に紫綬褒章を受章するなど国内でも顕著な業績が認められている。また，(3)高温高压条件下での地球内部物質に関する研究でも世界的な業績を挙げている。なお，(4)鉱物科学会会長・評議員等を歴任し，本会に対しても顕著な功労があった。

藤野清志シニア会員

推薦理由

(1)2008年MSA Fellow (Mineralogical Society of America)となり，(2)2000年に日本鉱物学会賞を受賞するなど，国内外で高い評価を得ている。(3)主要ケイ酸塩鉱物のX線精密結晶構造解析，かんらん石やざくろ石の転位構造の研究，透過電子顕微鏡による輝石その他の鉱物の微細組織・構造の研究，ケイ酸塩ペロブスカイトを中心とした高压鉱物の合成と相関係，結晶構造，相変態の研究などで顕著な業績をあげるとともに，研究教育活動を通じて後進の育成にも尽力されてきた。また，(4)旧日本鉱物学会会長として学会統合に尽力され，JMPS編集委員長等を歴任するなど，本会に対しても顕

著な功労があった。

名誉会員推薦委員会内規

1. 一般社団法人日本鉱物科学会は、必要に応じて名誉会員推薦委員会を置くことができる。
2. 本委員会は、鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において特に業績顕著な者、または本会に対し特に功労のあった者を名誉会員として理事会に推薦することを目的とする。

なお、名誉会員の適正総数は会員総数の概ね1.5%前後を目安とする。

3. 本委員会は、理事会から名誉会員候補者の推薦を行うように諮問された場合に設置される。但し、理事会において以下を審議し、承認された場合に限る。

(1) 会員幹事は、5月の第2回定例理事会直前に名誉会員適正総数を確認し、追加できる名誉会員数がある場合、理事会に報告する。

(2) 会長は、上記報告を受け、追加できる名誉会員数が適切であるか理事会に諮り、審議の結果、名誉会員の追加が認められた場合。

4. 本委員会は5名の委員で構成する。

(1) 委員は、理事会において正会員、名誉会員の中から選出して、会長がこれを委嘱する。

(2) 委員の任期は、委嘱された日から理事会への答申を終える日までとする。但し、その答申に関して定時総会で報告する必要がある場合は、その定時総会終了時までとする。

(3) 委員長は委員の中から会長が指名する。

5. 本委員会は、次に掲げる基準のいずれかを満たす者を名誉会員として理事会に推薦することができる。

(1) 鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において、国際的な賞を受賞した者

例えば、IMA, AGU等での受賞した者。

(2) 上記(1)に準ずる賞を受賞した者

(3) 鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において、世界的に顕著な業績をあげた者

(4) 本会に対し特に功労のあった者

例えば、日本鉱物科学会会長や和文誌、英文誌編集委員長などの重責な任務経験者

6. 本委員会は、上記5に掲げる基準を満たす名誉会員候補者を選出し、業績を吟味し、必要な場合は調査し、それを元に審議し、名誉会員として相応しい候補者を第2回理事会で認められた人数以内で推薦し、推薦理由書を添えて理事会に答申する。

7. 会長は、前項によって答申され、推薦された名誉会員候補者を理事会に諮り、その承認を得て名誉会員として決定する。

8. 名誉会員認定書の授与は定時総会において行う。

9. 名誉会員の氏名は、本会ホームページの「名誉会員」ページに写真と共に略歴を記載して公表する。

10. 本内規は、理事会の議を経て変更することができる。

附則

この内規は、法人設立登記の日から適用されるものとする。

令和4年(2022年)5月21日改正

(4) その他（黒澤庶務幹事）

黒澤庶務幹事より以下の連絡がなされた。

1)定時総会では、会長が各業務を一任している報告理事、幹事、委員長に対しては、会長に代わり今年度の報告をお願いするので、総会への出席(ZOOMでの参加可)をお願いする。報告のない理事の方も出席をお願いする。2)2022年9月17日の定時総会終了時で、任期2年終了の幹事・各委員会委員長・委員は任期満了となる。2年間のご尽力にお礼申し上げます。尚、新規の幹事・委員長は総会終了後の第1回理事会で審議され、承認を受ける予定。新幹事(新委員長)によりその第1回理事会で指名された新委員も、第1回理事会で承認を受けることができる。

II.審議事項

第1号議案 新入会員承認の件（阿部会員幹事・理事）

阿部会員幹事より、一般会員4名と学生会員25名(記載省略)の入会が紹介され、異議なく入会が承認された。この結果、2022年8月24日現在の会員数総数は809名(内訳一般会員524名、シニア会員168名、学生会員78名、永年会員28名、名誉会員11名)で、2021年5月21日の定例理事会後より9名減少となった。学生会員だけでなく、一般会員・シニア会員にも退会の申し出が多いので、対応を検討した方が良いのではとの補足があった。これに対し、年会在オンライン開催になってシニア会員等が参加しにくくなったことが影響しているのではとの意見があった。その点については、磯部行事幹事より、今後の総会・年会的あり方についても検討を進めたいとの議論があった。他方、退会の申し出をされた方は数年ほど年会に参加されていない方が多いとの印象もあるとの指摘があった。また、JMPSとGKKの冊子体をやめたことも関係するのではとの意見もあった。年会・総会をオンライン開催にすると、会員としてのメリットがなくなるので、何らかの対応策が必要との意見である。

第2号議案 2022年度補正収支予算案の審議（栗林会計幹事・理事）

栗林会計幹事より、2022年5月21日第2回定例理事会で承認された2022年度収支予算案について、その後2021年度会計決算(第3号議案で説明)が確定したことにより、次年度繰越額・会費納入額再見積・学会新HP作成請負費と管理費・その他各費目の再計算結果を記載した2022年度補正収支予算案として提示がなされた。なお、2021年度後半から雑誌の電子化等による節減策の効果が出ているが、現時点においても未確定要素が多いことから、2021年度とほぼ同様の収入・支出を見込んだ予算案となっていることが説明された。審議の後、2022年度収支予算案は異議なく承認された。なお、予算は理事会承認事項であり、総会承認事項ではないが、総会では最終予算案を報告する。

第3号議案 2021年度（一般社団法人第6期）決算及び事業報告の審議

（宮脇会長，大和田副会長，栗林会計幹事，小暮監事）

宮脇会長より、2021年度(一般社団法人第6期)の事業報告について説明がなされ、栗林会計幹事より、2021年度会計決算報告書(計算書類：貸借対照表、正味財産増減計算書)に基づき、2021年度決算報告について説明があった。2021年度は、Elements分担金支払いの連絡がコロナ対応で遅れ、次年度払いになったこと、昨年年会の黒字収支、電子ジャーナル化に伴う節減、事務局経費の大幅

節減が重なり、最終的に約150万円の黒字決算となったことが報告された。続いて、小暮監事より、8月24日(土)11時00分から実施された2021年度会計及び業務の監査実施結果について、適正であるとの監査報告が読み上げられ、その中で、学会経常収支に影響を与える様々な要因に対して、学会として創意工夫が必要とコメントがあった。その会計上の諸課題については、大和田副会長より、2022年度の第1回理事会以降に会計全般に関する検討を進め、学会賞基金となる特別会計についても対応を検討するとの補足があった。質疑応答の後、決算及び事業報告は異議なく承認された。上記承認を受けた「2021年度決算及び事業報告」を2021年度定時総会資料として会員に配布することとなった。

第4号議案 定時社員総会招集のための審議（宮脇会長・大和田副会長，説明：黒澤庶務幹事）

宮脇会長より、2020年度定時総会の日時・場所・出席方法、2021年度一般社団法人第6期事業計画について説明がなされた。その後、黒澤庶務幹事より、総会の目的事項(議題・議案)として以下の通り提示され、質疑応答の後、定時社員総会の日時、場所、目的事項(議題、議案)は異議なく承認された。

日時：2022年9月17日(土) 14:30-15:50

場所：新潟大学五十嵐キャンパス 総合教育研究棟 E棟2階 E260室

目的事項

報告事項

- I. 2021年度（一般社団法人第6期）事業報告（和文誌，英文誌編集，行事，広報，渉外，庶務，Elements，会員，その他）
- II. 2022年度（一般社団法人第7期）事業計画書及び収支予算などの件

III. その他

決議事項

- I. 第1号議案 2021年度（一般社団法人第6期）事業報告，決算承認の件
- II. 第2号議案 役員（理事、監事）選任の件

資料: 2021年度定時総会資料 決算及び事業報告

1. 2022年度収支予算

2. 2021年度決算報告 1) 貸借対照表 2) 正味財産増減計算書 3) 財務諸表に対する注記
4) 附属明細書

3. 監査報告書

授賞式

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 一、 日本鉱物科学会賞授与 | 一、 渡邊萬次郎賞授与 |
| 一、 日本鉱物科学会論文賞授与 | 一、 日本鉱物科学会研究奨励賞授与 |
| 一、 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞授与 | 一、 JMPS学生論文賞授与 |
| 一、 名誉会員認定書授与 | |

第5号議案 社員総会に出席しない社員の「電磁的方法（メール，FAX）」による委任状，議決権行使についての審議（黒澤庶務幹事）

黒澤理事より、総会での議決権行使として、電磁的方法(電子メールなど，FAX)による議決権の代理行使(委任状)と書面による議決権行使ができるようにする提案がなされ、審議の上、異議なく承認された。

第6号議案 運営細則一部改正の審議（大和田副会長・細則等検討委員会委員長）

大和田細則等検討委員会委員長より、2022年5月21日第2回定例理事会で報告した、庶務及び会誌その他の発行物に関する部分の運営細則の一部について、事業実態に合わせて内容を修正することが提示された。審議の結果、異議なく承認された。

一般社団法人日本鉱物科学会 運営細則

<修正部分抜粋> 削除箇所は取り消し線、加筆箇所は下線を追記

第5条 各幹事は次に掲げる業務を分担する。

(1) 庶務

(イ) 総会、理事会及び幹事会に関する事項

(ロ) 記録の作成・整理及び保管

(ハ) 文書の発受及び保管

(ニ) 出版物の配布

(ホ) 事務局の管理

(ヘ) 表彰に関する事項

~~(ト) 国内外からの寄贈・交換図書~~の整理と保管

会誌その他の発行物

第22条 本会は会誌として和文誌（岩石鉱物科学）を毎年4回、と英文誌（Journal of Mineralogical and Petrological Sciences）を毎年6回発行する。

2 岩石鉱物科学は学術論文のほか、総説、解説、学会記事、ニュースなど、和文誌編集委員会が適当と認められた事項を掲載する。

3 Journal of Mineralogical and Petrological Sciences (JMPS)は学術論文のほか、JMPS編集委員会が適当と認められた事項を掲載する。

~~第23条 会員名簿を発行する。~~

第24~~3~~条 その他の出版物の発行は幹事会で企画立案し、理事会の承認を経て行う。

第25~~4~~条 その他の出版物を必要に応じて会員に配付することがある。

第7号議案 名誉会員候補者の審議（宮脇会長）

宮脇会長より、2022年5月21日第2回定例理事会の承認を受けて名誉会員推薦委員会に諮問した名誉会員の推薦について、先の報告事項の中で、推薦委員会から下記2名の候補者が名誉会員として答申されたので、2名を名誉会員とすることが提案され、審議の結果、異議なく承認された。

大谷栄治シニア会員

藤野清志シニア会員

第8号議案 研究発表優秀賞選考委員会委員の交代について（吉田委員長代理 黒澤庶務幹事）

吉田委員長に代わり、黒澤庶務幹事より、2022年5月21日第2回定例理事会で承認された委員のうち、田坂委員から交代の申し出があったため、1期目委員を田阪美樹委員から岡本敦委員に交代することが提案された。川本理事により、交代の経緯について補足説明があった後、審議の結果、異

議なく承認された。

研究発表優秀賞選考委員会

委員長：吉田健太

継続委員(2期目)：吉田健太(委員長)，杉浦悠紀，湯口貴史，糀谷 浩，星出隆志

新規委員(1期目)：瀧川晶(副委員長)，岡本 敦，白勢洋平，伊神洋平，福山繭子

その他

(1) 年会案内のホームページの件

大藤理事より，来年4月以降に学会ホームページを新たに更新し，広報委員会を中心とした管理・運営の方向で検討を進めているが，年会のホームページについても検討を進めた方がよいとの提案がなされたが，この件について，事務局と磯部行事幹事より，年会投稿管理，プログラム編成作成・運営に利用しているアトラス社のconfitに付属するHP公開機能は，プログラム公開と投稿管理がconfitシステム全体でリンクして運用していることから，HP公開機能の利用が必須であるため，行事委員会とLOCでは今後も継続して利用していくとの補足説明があった。

(2) Elements誌の電子化の件

大藤理事より，Elements誌の購読料が学会会計での大きな支出項目となっているが，電子ジャーナル化に移行して購読料が安くなることについて検討がなされているか質問があった。この件について，宮脇会長より，IMAの会長の会議では広告収入を考えて電子ブック等への移行などの議論が出ているとの説明があった。但し，購読料は下らない見通しとのことであった。

(3) その他 特になし

閉会 以上の議事を終え，16時59分に閉会した。

上記の決議を明確にするため，出席した会長，副会長及び監事がこれに記名押印する。

令和4年(2022年)10月21日

会 長 宮脇 律郎 印

副会長 大和田 正明 印

監 事 小暮 敏博 印

(配布時押印省略)